

盲ろう者概論

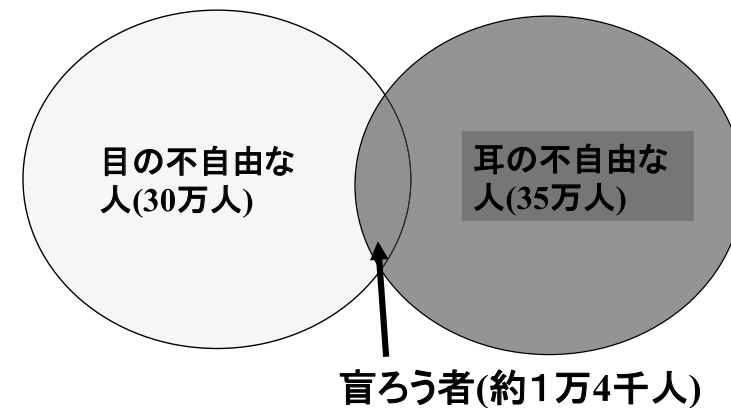
特定非営利活動法人 えひめ盲ろう者友の会
高橋 信行

- 身体障害者手帳に
 - 視覚障害
 - 聴覚障害両方の記載がある。

→ 盲ろう者

定義

- 目と耳の両方が不自由な者



障害の程度による分類

		聴覚障害	
		全ろう	難聴
視覚障害	全盲	全盲全ろう	全盲難聴
	弱視	弱視全ろう	弱視難聴

経歴による分類

- 盲ベースの盲ろう者
- ろうベースの盲ろう者
- 先天性の盲ろう者
- その他の盲ろう者

盲ベースの盲ろう者

- はじめ目が不自由であった人が、後から耳が不自由になった。
- 盲学校に行っていて(卒業して)点字系のコミュニケーション手段を使う人が多い。

ろうベースの盲ろう者

- はじめ耳が不自由であった人が、後から目が不自由になった。
- ろう学校に行っていて(卒業して)手話系のコミュニケーション手段を使う人が多い。

先天性の盲ろう者

- 幼い頃から目と耳の両方が不自由であった人。
- 盲学校に行くか、聾学校に行くかで獲得されるコミュニケーション手段が異なる。
- 特に18才未満の盲ろう者を「盲ろう児」と呼ぶことがある。
- 盲ろう児の85%以上は知的障害を伴っているといわれ、言葉やコミュニケーション手段の獲得が困難な場合が少なくない。

その他の盲ろう者

- 成人してから目と耳の両方が不自由になった。
- 点字や手話などのコミュニケーション手段を獲得せず、手書き文字などを使用している人も少なくない。

盲ろう者の不自由とは

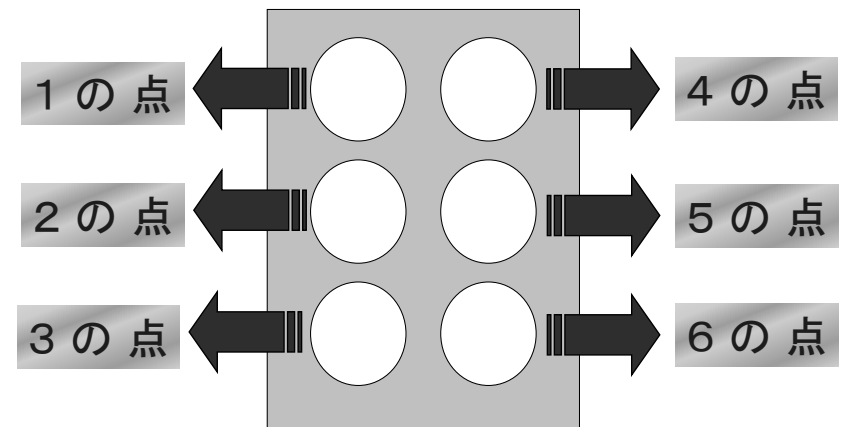
- コミュニケーションの制約
- 情報摂取の制約
- 移動の制約

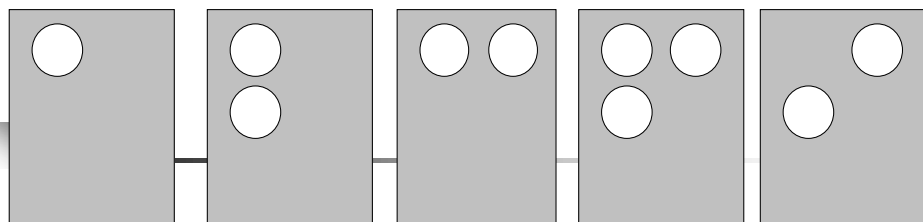
→ これらにより社会に存在しているのに、社会と隔絶された生活を余儀なくされる。

→ 孤独, 孤立

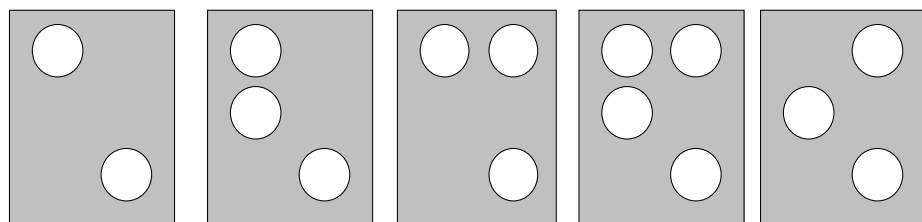
盲ろう者のコミュニケーション

点字





あ い う え お



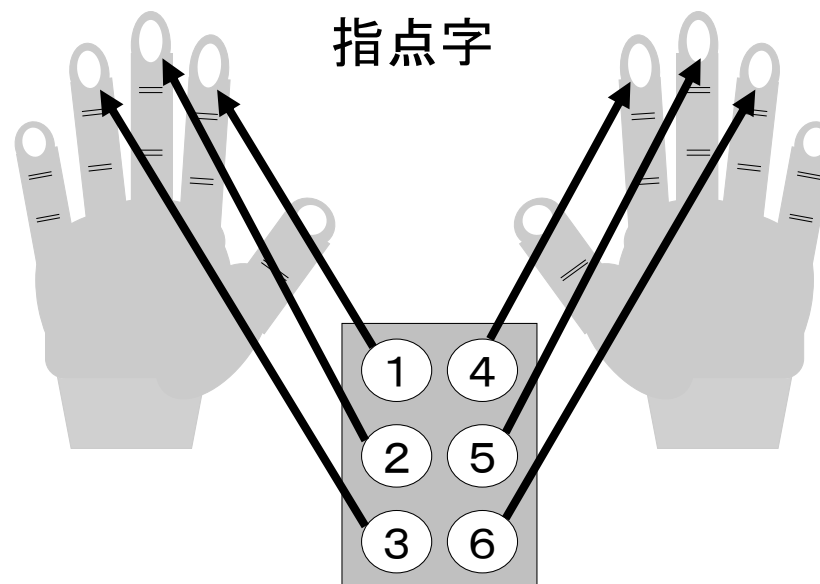
か き く け こ



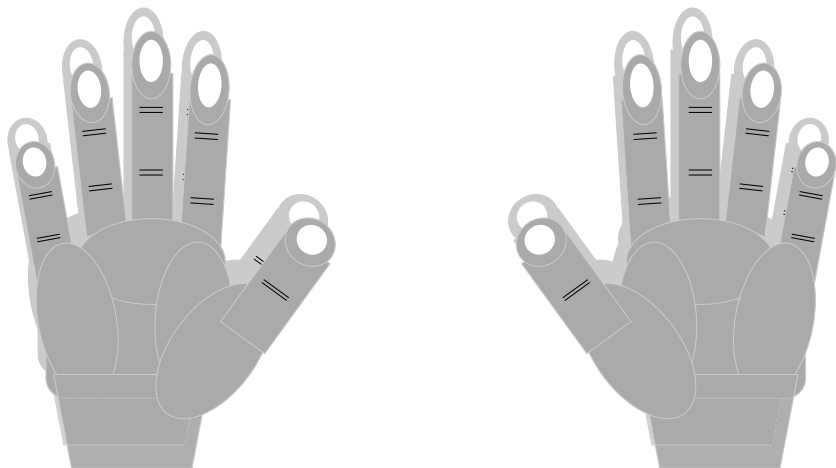
1. ブリスタ



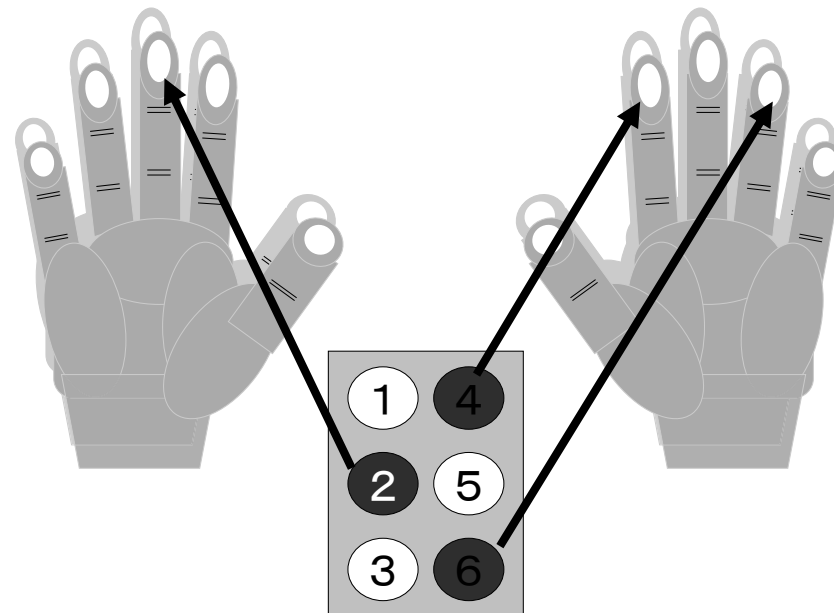
指点字



通訳者の手を盲ろう者の手に重ねる



「こ」を伝える



手話

ろうベースの盲ろう者のコミュニケーションとして使われることが多い。

1. 触読手話

通訳者の手に触れて手話を読み取る。

通訳者が盲ろう者の手を取って手話を表現させる。

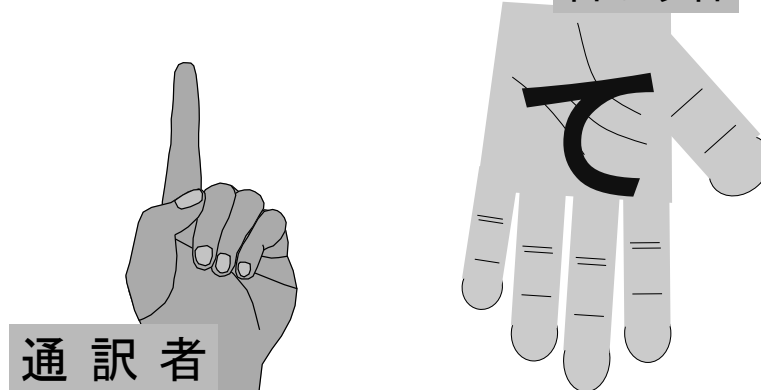
2. 弱視手話

見えやすいように手話の大きさ、速さ、明るさ等に配慮して行う。

手のひら書き

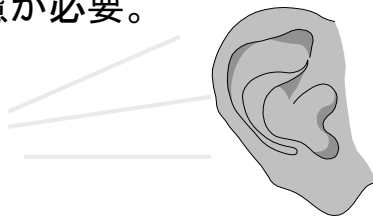
- 相手の手のひらにひらがなで文字を書く
- 相手の指をとって机などに書く

盲ろう者



音声

- 盲ろう者に聴力が残っている場合にその盲ろう者が聞こえやすいように耳元や補聴器のマイク(集音器)に向かって話す方法。
- 盲ろう者の聞こえの状態によって、声の高低、強弱、速さなどに配慮が必要。



筆談

- 盲ろう者に視力が残っている場合、通訳者が紙等を書いて盲ろう者に伝える方法。
- その盲ろう者が見やすい大きさ、太さ、間隔の文字を書いて伝える。



福祉の狭間におかれてきた盲ろう者

- 「視覚障害者に対するサービス」は「聞こえる人」に対するサービス
- 「聴覚障害者に対するサービス」は「見える人に対するサービス」
 - これらのサービスを盲ろう者は享受することができない
 - 盲ろう者は「見えないだけの人」や「聞こえないだけの人」とは違った独自のニーズ
- しかし盲ろう者の数が少ないこともあり、社会から正しい認識をされてこなかった。
 - これまで盲ろう者は福祉の狭間におかれてきた

盲ろう者に対する支援 (通訳ガイドヘルパー)

1. コミュニケーション支援
2. 情報保障
3. 移動の介助

→ 自立と社会参加